

交通事故多発期迎え



安全運転の徹底を

冬道事故防止のポイント

- 1. 滑りやすい路面を見落とさない**
車両の通行量が多く、圧雪している箇所は非常に滑りやすくなっています。交差点の中や手前、また、黒っぽく見える路面は「ブラックアイスバーン」と呼ばれ、車さらに歩行者も注意が必要です。
- 2. カーブのときはスピードに注意**
冬道のカーブは、カーブ手前で減速しましょう。夏のようなスピードでカーブに入るとスリップなどをして危険です。
- 3. 「見えない」は、危ない**
地吹雪や激しい雪のときは、対向車が見えなくなります。道路脇の雪山から突然車や歩行者が出てくる場合もありますので、徐行や安全確認の徹底などの注意が必要です。

- このほかにも、
- ブレーキは夏季の2倍以上手前から
 - 緩い坂道も油断しない
 - 早めの出発や余裕の運行計画などで無理のないスピードを保持する
 - 横断歩道で歩行者は、路面が滑りやすいので安全確認も含めて、ゆっくりと歩いて横断するなど注意することはたくさんあります。

積雪寒冷地の訓子府町にとって、冬道は、さまざまな場所で交通事故発生の危険が潜んでいます。

ドライバーは、夏季以上に安全運転を、また、歩行者も周囲の状況に十分気を配って歩くことを心がけましょう。

冬道の危険と事故防止

交通事故多発期と言われる季節に入りました。北海道では冬期間に人身事故が多く発生します。その大きな理由として路面が滑りやすくなることです。

ドライバーは、常に「道路は滑る」ということを頭に入れると同時に、気温や交通量、わだちなどの道路形状といった滑りやすさの状況を考慮して走行することが大切です。

交差点の走行は夏季と同様に一時停止を守り、左右の安全確認を徹底することや、優先道路であっても徐行することです。

さらに冬期間は、吹雪や雪山による死角など視界不良の交差点も現れますので、夏季以上の安全確認を徹底することが必要です。

冬

道路に危険潜む

雪と氷の季節

今年の事故発生状況 前年同期より減少だが

今年1月から11月15日までの町内での交通事故発生状況は下の表のとおりで、発生、死傷者ともに前年同期を下回っています。ただ、9月14日早朝に、前年の9月に発生以来、わずか1年足らずで死亡交通事故が発生しました。

町や関係機関では、「交通事故死ゼロの日 目標毎日」の精神をストップすることなく、死亡交通事故の根絶に向けて取り組んでいるところです。

平成24年 町内の交通事故発生状況

発生件数	死者	傷者
5件 (-4)	1人 (-1)	6人 (-7)

1月1日～11月15日
カッコ内は前年同期比



飲酒運転の

根絶を

年末年始にかけては、忘年会・新年会など飲酒の機会が増えてきます。

飲酒運転は、悪質な交通違反です。酒酔い・酒気帯び運転をした者ばかりではなく、車両提供者、酒類提供者、同乗者に至るまで罰則があります。

飲酒運転をしない、飲酒運転者を出さないなど、ドライバー本人および企業、地域など一体となって飲酒運転の根絶を図りましょう。

さらに夜間、暗い時間帯が長くなりますので、ドライバーも歩行者も夕暮れ、夜間の交通事故防止に努めましょう。

